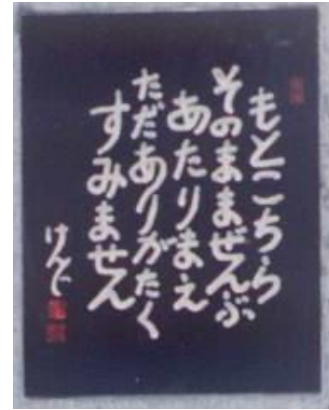


「もとはこちら」のお話し

№26 今月のテーマ もとはこちら は、幸せの原点



北原ゆり筆

私事で恐縮ですが、この度「もとはこちらのお話し」という名前の本を出させて頂きました。

この本は「もとはこちら会」の月報用に書かせて頂いた文章二年分を一冊にまとめ、加筆修正し、読みやすくしたものです。

さて、この本をある方に贈呈させて頂きましたところ、何か一言書いてほしいという、思いがけないご要望を頂きました。通常こういう場合は、「著者謹呈 O O様へ」というような事を書くのが普通だと思うのですが、そういう事とは別に、何かもつと良い言葉はないかと考え、ふと思いついたのが、「もとはこちらは、幸せの原点」という言葉です。

それで、まだインクの香りも真新しいその本の見開きのところに、喜んでこの言葉を書かせて頂きました。

やらなければ損

昔、勉強会である会員から、「先生、『もとはこちら』というのは、やらないと損ですね」と言われ、聞かれた平井先生が苦笑しながら、「損得で行動するのは、本当は邪道だけどね、邪道だとは思っけれど、まあ初めのうちは損得でやってもいいよ。損得から始めてもやっていけば、この『もとはこちら』という事が、本当に幸せになる為の、最高の近道だという事が分かるから」と言われたことがありました。

~~~~~  
考えてみれば、私達はいつも幸せというものを求めて生きています。人は幸せになるために生きていっていると云っても過言ではないと思います。しかしその求めている「幸せの内容」は、一人ひとり夫々であるうかと思えます。

食べ物にも事欠く毎日を過ごしている人が求めているものは、空腹を満たしてくれる今日一日の食料であり、また心身ともに疲れきった人が求めているものは、体を横たえてゆっくりと休む事のできる温かいベッドであるかもしれない。

また、安心して長く働くことのできる職場や仕事を求めている人がいるかもしれません。中には、自分の深い悩みや苦しみを理解し、温かく包み込みながらも叱咤激励（しったげきい）してくれる、そういう真実の友人を切実に求めている人がいるかもしれません。

そういうように、求めるものは一人ひとり皆違ってありますが、いつの日かその願いが叶い、求めていた幸せを手にすることができた時には、私達は苦しんだその度合いに比例して、大きな喜びに包まれ、幸福感に浸るのです。

しかし、いつときはどんなに大きな喜びや幸福感に包まれたとしても、もしもそこに「もとはこちら」という、人間にとつての基本的なものの考え方や生き方が欠けていたとすれば、折角手に入れたその大きな喜びや幸せも、やがては、はかなく消えて行ってしまう事になるのです。

例えば、そこに「この成功は、自分ひとりが頑張ったからだ」というような思い上がりや傲慢な気持ちがあったり、「自分が幸せになる為には、他人が不幸になっても、それは仕方がない事だ」というような自己中心な考え方や生き方、或いはまた「何か偶然のお陰で、たまたま今回はうまく行ったのだ」というような勘違い等々、こういう自然の摂理に反する考え方で生きていたとすれば、折角手に入れ

た幸福も喜びも、決して長続きする事はなく、必ず自分の身の回りには次の不幸が起きてきてしまうのです。

### 真理の流れに沿って生きる

自然のエネルギー、即ち私達の命の流れは、常に一定方向です。

それは、「全ての人が、等しく幸せになる」為の方向です。言葉を変えて言えば、私達全ての人が運命共同体にあるという事です。共同体ですから、一人だけの独立した幸せなどという様なものはありえません。あると思うのは若い人間の一時の妄想です。世の中にたった一人でも不幸な人がいるとすれば、それは必ず、全員の不幸となって現れてくるのです。

万物同根同一体であり、そして元々全ての人は、神仏にも匹敵する絶対善なるひとつの存在です。

そして元々全てが絶対善の存在であるから、その中の一人でも不幸な状態にあったり、あるいは不幸になるような間違つた方向に行こうとすれば、世界中に不幸な出来事が起こってくるのです。それは丁度、一方通行の道を逆送しようとするれば、交通事故という不幸が起こってくるのと同じ様なものです。身上・事上に不幸が起きる事によって、私達は自分の生き方の間違いに気付かされ、正しい方向に行くようにと導かれるのです。

それでも尚その命の正しい流れを無視して逆走しようとするれば、不幸はますます大きくなり、苦しみは耐え難い



ものになってきます。それは元々私達が見守られ、救われているからであり、救われているからこそ、不幸が起きてくるのです。

## もとはこちらを 信念化する



ところで、大人も子供も関係なく、男も女も関係なく、また人種や宗教の違いにも全く関係なく、いつの時代であつても、またどんな場所であつても、全ての人に当てはまる事を真理と言います。

「もとはこちら」という事は、一人の例外もなく全ての人に当てはまる真理です。この絶対の真理に気付き、真理に従つて行動し、もとはこちらを極めていけば、やがて私達は、本来の自分というものに、はつきりと出会う事ができる様になります。

そして条件次第で変わる様な「相対的な、はかない幸せ」ではなく、どんな中にあつても変わることのない「究極絶対の幸せ」というものを得て、自由解脱をはかることさえ出来るようになるのです。

~~~~~

「もとはこちら」という事は、たんなる思想とか、おまじない等という様なものではありません。これは自然の摂理そのものを表わしている言葉です。

もとはこちらとは、即ち、「自分が体験した事の全ての原因は、全部自分自身の内にある」という事、そして、「偶然はなく、全ての事は必然によって起こってくる」という事、「全ての事は、本当の幸福を得る為に起きてくる」という事、そして「肉体の生死を越えて生き通している、自分の命を知る」という事です。それともう一つ大切な事は、

絶対世界を知るという事です。絶対世界には自分も他人もなく、それらは仮の姿に過ぎないという事です。

「もとはこちら」という事を信念化し、常に生き通しの自分として、自然の摂理に基づいた自他一如の生き方を実践していけば、その実行実践の程度に応じて、誰でも安定した幸せを必ず手にする事ができるのです。

そのためには私達はいついかなる時も、自分の軸足を、「もとはこちら」のベースに置いておくことが必要です。そしてどんな事があつても、その軸足を決して外さない事です。家庭の中にあつても職場にあつても、またどんな親しい友人知人との関係にあつても、幸せになる為には「もとはこちら」の真理を手放さないことが大切です。

~~~~~

こういう平井先生の教えと、もっともつと幸せになつて頂きたいとの私の祈りを込めて、今回はその方とその方の生徒さんに、頭記の言葉「もとはこちらは、幸せの原点」という言葉を書かせて頂きました。

もとはこちらの生き方は、幸せになる為の出发点であると同時に、幸せになる為の近道であり、そしてまた究極の幸せの到達点でもあります。

できることなら、世界中の全ての人に、「もとはこちら」は、幸せの原点」といふ、この素晴らしい言葉をお贈りしたいと思います。

編集発行人

もとはこちら会 資料編集部 北原友也

専用HP

<http://www.motoha-kochira.com>

mail: [data3@motoha-kochira.com](mailto:data3@motoha-kochira.com)

073・461・6300